

日本語検定 文部科学大臣賞受賞



第101号

宮城学院女子大学

日本文学会

2018年7月

発行所

仙台市青葉区桜ヶ丘

九丁目1番1号

(279)1311(代)

日本文学会ブログ
<http://mgunichibunkai.blog.fc2.com/>

日本文学会Twitter
@mgu_nichibun

昨年一月に学内で日本語検定の団体受検が行われました。大学のホームページでも紹介された通り、本学受験者の平均得点率は全国平均より一五・四点も高いという好成绩でした。そしてその結果、なんと日本文学が最高賞の「文部科学大臣賞」を受賞しました。大変喜ばしいことです。

そこで、受験者の中でも特に成績の良かった三年日野愛心さんから日本語検定を受けての感想をいただきました。以下感想となります。



「私は今まで日本語検定というものを知りませんでした。どう勉強すればいいかということも分からなかったのですが、まずは授業で配布される課題の内容を完璧にこなせるよう勉強しました。

敬語などは中学校や高校でもある程度勉強するかと思いますが、実際に授業でも使われていますし、きちんと教えてもらったことがない、というのが実状ではないでしょうか。私自身、学校の先生やアルバイト先のお客様など、様々な場面で敬語を使う機会がありますが、本当に正しい敬語を話せているか、とても不安に思っていました。しかし、今回日本語検定に取り組んだおかげで、そうした不安はかなり解消できたと思います。

私は今回三級を取得しました。次は二級に挑戦したいと思います。日本語検定は敬語や漢字、四字熟語や言葉の言い回しなど、日本語を扱う上でとても勉強になりますし、単に試験に合格するとか資格を取得するという以上に、そこで学んだことが普通の生活に直接活かせる点がとても魅力です。

私は日本語検定の勉強を通して自分たちが普段使っている日本語により強い関心を持つようになり、また「言葉を使う」ということについても以前より注意深くなくなりました。世の中には「言葉なんか分かれればいい、伝わればいい」と思っている人もいます。私も思いますが、私は日本文学に籍を置く者として「日本語」をもっと大切にしたいと思っています。

日野さんが語るように、私も、学んだことを生活にすぐ活かせることが魅力的だと思います。美しい言葉、正しい言葉を使う人は心の綺麗な人だという印象を与えるでしょう。学内では日本語検定対策という授業が開講されているので、資格取得を目指すために、ぜひ、日本語検定に挑戦してみてくださいいかがでしょうか。(安)

二〇一八年度 日本文学科

新入生 オリエンテーション

武器というのはミサイルや核爆弾など、国の上層部が持つ特殊な兵器だけではない。私たちは全員武器を所持しているのである。その武器の名前は「言葉」だ。

先日、とあるレコード会社の音楽プロジェクトを目にした。登場人物たちが己の領土とプライドをかけて争いを繰り返している。その世界では特殊なマイクを用い、相手の精神に干渉するようにして相手を攻撃する。つまり、兵器ではなく

四月七日、二〇一八年度日本文学科新入生オリエンテーションが開催されました。

開会式では新入生の緊張した様子が見られました。学科長の挨拶と教員紹介が終わり、クラスごと写真撮影に移りました。先生方にも新入生の笑顔を引き出したい、と、良い写真が撮れたのではないかと思います。

次に、班に分かれて学内ツアーを行いました。新入生に少しでも場所を覚えてもらえるよう、宮城学院の広い学内でよく利用する場所を中心に、学生リーダーを先頭にして回りました。

学内ツアーが終わると、教室を

分けて時間割作成や自己紹介などのミニオリエンテーションを行いました。最初に自己紹介をし、新入生は少し緊張しているように見えました。が、だんだんと慣れ始め、自分の趣味や特徴を楽しそうに話している人が多くなったと感じました。早くみんなと仲良くなって大学生活を楽しみたいという気持ちも伝わってきました。

自己紹介が終わった後、お題の読み合わせなどを行った後、本題の時間割作成に移りました。新入生には事前に先生方から説明もされていましたが、やはり時間割作成に不安を抱えている学生が多かったです。リーダーと一緒に時間割を組み立てていき、真剣に時間割を考えている新入生の姿が印象的でした。初めての時間割作成で、単位数の確認や選択授業の選び方など、分からないことだらけな中、リーダーに進んで質問して、しっかりと心配な点を解決しようとしていました。また、新入生同士でもお互いに声を掛け合っていて、時間割を作り終わる頃には、打ち解けられていた様子でした。

教室に分かれてのオリエンテーションが終わり、最後に教室を開放し、自由に昼食をとったり質問や相談をできる時間を設けたりしました。

多くの新入生が利用してくれて、友達同士で昼食を食べたり、リーダーに相談をしたりとそれぞれ充実した時間を過ごしていました。

オリエンテーションのはじめの方では緊張や不安に包まれた表情だった新入生も、終わる頃にはにこやかな表情に変わっていて、少しでも新しい生活への不安が取り除けたかと思うと、リーダー一同とても安心しました。新入生の皆さんにはぜひこれからも、大学生活を充実させたものにし、楽しく過ごしていってほしいと思います。

(石)

言葉が力を持つのである。動画サイトで初めてCDを試聴した時はあまりに斬新な世界観に驚きを隠せなかったが、登場人物も個性に富んでおり、非常に面白く興味深い作品だと感じた。

言葉が力を持つというのは、現実の世界でも同じことが言えるだろう。予言、褒め言葉、格言など、それは時に人の心を動かす良薬になる。しかし、自己評価が比較的低いとされる日本人にとって、最も効力のある言葉は罵言(悪口)ではないだろうか。感情に任せられた罵言はいじめなど対象に浴びせられ、次第に心を病ませて、最悪は死を選ばせてしまう。喻えれば劇薬になってしまうこともあるのだ。

薬品の配合を少し変えるだけで全く異なる物質ができるのと同様に、それが何気なく発した言葉だとしても誰かを傷つけてしまうかもしれない。そうならないためにも、重要なのは言葉選びだ。感情任せに発した言葉と似たような言葉と類似するものを選び、少し変えるだけで相手の誤解をなくすことができる特効薬である。

言葉を選ぶ権利が保障されている現代だからこそ、言葉を伝える際には心の中の自分に問いかけてみていただきたい。

「今発しようとしているその言葉は、本当に相手を傷つけないと断言できるものですか？」

(安)



言葉が力を持つのである。動画サイトで初めてCDを試聴した時はあまりに斬新な世界観に驚きを隠せなかったが、登場人物も個性に富んでおり、非常に面白く興味深い作品だと感じた。

言葉が力を持つというのは、現実の世界でも同じことが言えるだろう。予言、褒め言葉、格言など、それは時に人の心を動かす良薬になる。しかし、自己評価が比較的低いとされる日本人にとって、最も効力のある言葉は罵言(悪口)ではないだろうか。感情に任せられた罵言はいじめなど対象に浴びせられ、次第に心を病ませて、最悪は死を選ばせてしまう。喻えれば劇薬になってしまうこともあるのだ。

薬品の配合を少し変えるだけで全く異なる物質ができるのと同様に、それが何気なく発した言葉だとしても誰かを傷つけてしまうかもしれない。そうならないためにも、重要なのは言葉選びだ。感情任せに発した言葉と似たような言葉と類似するものを選び、少し変えるだけで相手の誤解をなくすことができる特効薬である。

言葉を選ぶ権利が保障されている現代だからこそ、言葉を伝える際には心の中の自分に問いかけてみていただきたい。

「今発しようとしているその言葉は、本当に相手を傷つけないと断言できるものですか？」

(安)



この度、日本文学科で長年にわたりご尽力いただいている伊狩弘教授にインタビューをさせていただきます。研究についてや私生活のことなど、様々なお話を伺いました。Q：研究分野について教えてください。

A：研究分野は日本の近代文学全般で、特にいわゆる自然主義文学などです。島崎藤村や田山花袋あるいは正宗白鳥といった作家を中心に研究してきました。もちろん、夏目漱石なども扱っています。Q：専攻したきっかけは何ですか。

A：専攻したきっかけは、一番はやはり文学が好きだったということです。本を読むのも好きでしたし、文学全般が好きで外国文学などもよく読みました。特に島崎藤村などは読んでみたいと思っていました。その他にも色々な作家を少しずつですが読んでいたので専攻しました。

Q：本は小さな時から好きでしたか。

A：小学校の高学年くらいから本を読むようになりました。中学校時代は推理小説やSF小説が好きで、暇さえあれば毎日読んでいました。推理小説は「ABC殺人事件」などの外国の推理小説もたくさん読みました。今ではもうどんなのを読んだかあんまり覚えてないけど、(無邪気な笑顔)。

Q：好きな作家、文学作品は何ですか。

A：難しい問題ですね。好きな作家は、今はやはり専門で読んでますので、田山花袋ですかね。好きな文学作品は、仕事なので何でも読みますが、ここ何年かで田山花袋を集中して勉強したので花袋の作品ですかね。今年は谷崎潤一郎もやっていますので、谷崎潤一郎も好きですね。

Q：オススメの文学作品はありますか。

A：何でもオススメなんですけども、皆さんに勧められるようなものって言うと、谷崎潤一郎の作品かな。今の学生さん、皆さんのようなお嬢さんたちは谷崎の作品全般が合ってるんじゃないでしょうか。夏目漱石や森鷗外なんかはちょっと古くて理屈っぽいので、島崎藤村や田山花袋も皆さんには古めかしいというか、あまりに地味で女の子に読みなさいというのにはちょっと、もちろん好きな人は読むんだけど、それよりも谷崎の作品かな。長いけど「細雪」とか、女性向きかな。女性の読者が読んで素直に読めるのかなという感じがします。

Q：休日ほどのように過ごしていますか。

A：休日は少し身の回りの整理整頓や掃除をして、あとは夕方からお酒を飲んでます(照れ笑い)。毎日飲んでるんですけど、特に休日はのんびりして早い時間からお酒を飲んでくつろいでます。あと最近は運動不足なので、あまり高くない山に登ったり運動するよう心掛けています。あんまり高い山は無理だけど、低い山に登って足が衰えないように運動してるかな。

Q：運動は一人でされるんですか。

A：山に行くときは女房と二人で行くようにしています。女房も運動不足なので一緒に歩いて体を鍛えた方が良いんじゃないかと思って一人だとね、話し相手がないからね。



Q：今後取り組みたいことや、挑戦したいことはありますか。

A：具体的には、今年はヤクーツクというところで学会発表をする予定なので、それを頑張りたいというのが一つの目標です。ヤクーツクは冬になるとマイナス六〇度とかになるシベリアのすごく寒いところなんです。行くのはもちろん夏とかですけど、それと今、中野重治の小説を勉強してるので、すごく長くて途中で頑張ったんだ

おすすめ映画

『彼らが本気で編むときは』
監督/荻上直子
制作年/二〇一七年
小学五年生のトモはネグレクトの母親が家を出て行ったため、叔父のマキオの元に向かう。マキオ

けど、「甲乙丙丁」という小説を勉強すること。それが挑戦したいことですね。長くて大変です。

Q：日本文学科の学生に対する印象を教えてください。

A：日本文学科の学生の印象は、まあ色んな人がいるけど、やはり大人しくて可愛い(笑)。大人しくて可愛いんだけど、少し消極的かなやっぱ。もう少し全体的に積極的になれたらいいかなと思う面もあるけど、でもまあ消極的なところも良いのかな。もうちょっと積極的の何にでもチャレンジする方が良いかなとは思ってますけど、全体的に大人しくて可愛くて良いです(微笑み)。

Q：最後に、日本文学科の学生にメッセージをお願いします。

A：毎日会ってからは、毎日授業でメッセージを發してるつもりなんですけども、そうですね、「プレークスルー」という言葉があって、「突破する力」ということらしいんですけど、やはり前向きにプレークスルーするような気持ちで、積極的に何事にも取り組んでほしい。私なんかできないからと引いてしまう人が多いので、何でもやればできるというような積極性を持つてほしいなと思います。

伊狩先生、この度はお忙しい中丁寧な質問に答えていただきありがとうございます。授業だけでも知らない新しい一面も垣間見ることができ、伊狩先生の魅力がより学生の皆さんにも伝わる貴重な時間になったのではないかと思います。(萌)

おすすめ本

『三軒茶屋星座館』
著者/柴崎竜人
定価/六八〇円(税別)
出版社/講談社
三軒茶屋の裏路地にひっそりと佇むプラネタリウム兼バー、三軒茶屋星座館。そこには店主の和真と双子の弟創馬と創馬の娘月子が暮らしていた。ある日、月子が自分分は創馬の本当の娘ではないことを知ってしまった。家を出してしまふ。無事に月子を見つけた和真たちは、月子の星座であるうお座の話に耳を傾ける。

『夢をかかえるソウ』
著者/水野敬也
定価/六四八円(税別)
出版社/飛鳥新社
これは、ごく平凡なサラリーマンが「神様」を名乗る謎の生物、ガネーシャの指南に乗って自らの人生を変えていく物語である。主人公はガネーシャから次々と課題を出されるが、それは「靴をみがく」や「コンビニで募金をする」などと地味なものばかり。最初は疑いながらも人生を成功させるために課題に取り組んでいく主人公。果たして主人公はガネーシャの教えの下、自分を変え、無事成功することが出来るのだろうか。



この本は、継続して実践することの大切さを教えてくれる。自分を何度も変えようと思ったがなかなか変えられなかったという人、自分に自信がない人には特にぜひ読んでほしい。主人公ととも自分自身を成長させることが出来るだろう。そして大切なことに気づかされるはずである。(石)

の家には以前とは違い、トランスジェンダーの女性、リンコという恋人が住んでいた。トモは戸惑いながらも、自分に愛情を注いでくれるリンコに心を開いていくようになる。

近年、LGBTという言葉を目にする機会が増えた。本作はそのうちのトランスジェンダーを一つのテーマとして扱っている。リンコは戸籍上、男性であるが、心は女性である。トモは偏見を持っていて、リンコを知っていき中では考え方が変わり、反対に偏見を持つ者に対して嫌悪感を抱くようになる。言葉は広まっても、理解されるかは別である。トランスジェンダーやネグレクトとはどういうものかを知るために本作をとてもおすすめする。(安)

【こぼれ話】ある日の伊狩先生の授業開始時のこと。教室に入って資料を教壇に置き、学生に発した第一声は「疲れてきましたね」。学生の心の中(まだ授業開始から一分も経っていません)。教室は和やかな空気に包まれました。

日本文学科特別企画

『熱海殺人事件』

四月二六日、学生センター小ホールにて★☆北区AKI STAGEによる演劇『熱海殺人事件』の公演が行われました。

「熱海殺人事件」は、劇作家・つかこうへいの初期の代表的戯曲で、最年少で岸田戯曲賞を受賞した作品です。何度も再演を重ね、東京の春の風物詩とも呼ばれる作品になりました。登場人物は、部長刑事・木村伝兵衛と、新任の刑事・熊田、婦人警官・花子、殺人犯・大山の四人。一九九〇年代ごろからは様々なバージョンが作られ、変化しています。基本となる設定や構図を残しつつ、台詞を変えたり、関係性や結末を変えたりしたものが、さらにバージョンによる基本の物語すら異なるものもあります。主役の設定も、同性愛者だったり精神異常者だったり様々です。

今回、本学で上演されたのは「熱海殺人事件」女・木村伝兵衛バージョン。泣く子も黙る警視庁の名物刑事・木村伝兵衛は、迫力があって負けん気の強い、凛とした女性です。原作では婦人警官・花子というキャラクターが登場しますが、今作では男性となり、自身が「同性愛者である」という秘密を家族に打ち明けられず、故郷へ帰ることができない伝兵衛の部下・万平として物語に登場します。登場人物の性別や性格など、原作からアレンジされた面が見える一方で、大音量の「白鳥の湖」を背に伝兵衛が電話で怒鳴りたてるオプニングや、新任の刑事に渡す書類をわざと地面に落とし、伝兵衛が「拾ってください」という

やり取り、伝兵衛が犯人を花束で何度も打ち据えるシーンなど、「熱海殺人事件」の名物となっているシーンも多く見られました。

「熱海殺人事件」女・木村伝兵衛バージョンは、熱海の海岸で工員の男が同郷の女を殺したという単純な事件を、刑事たちがそれぞれ的美学を犯人に押し付け、世間が注目するような大事件に仕立て上げようと動機を捏造していきます。いかにして三流殺人犯の大山を一流の殺人犯に仕立て上げるのか。人間の尊厳を賭けて、権力がいかに犯罪を仕立てあげるかを描いています。

重たい内容かと思いきや、織り込まれる華麗なダンスやアクション、句のネタなどのコミカルなシーンも随所に見られました。鮮烈な照明と音楽が、より場面を深く印象づけます。

一時間以上の公演中、ほとんど途切れることのない膨大なセリフ量と、畳みかけるような恐ろしい驚嘆しました。



速さのセリフ回しに圧倒されました。後半の回想シーンでは、伝兵衛役の大滝樹さんが被害者の女も演じます。舞台上でパーカーを羽織り、別の役を纏っていく過程を目の前にして、鳥肌が止まりませんでした。舞台の上には役者がいるだけで、客席には観客がいる当たり前のようでも、客席には不安など高揚感や臨場感、期待や不安などの混沌とした感情が得られるのは舞台演劇ならではの魅力だと感じました。生の芝居を肌で感じることは、新しい自分を発見できるきっかけになるかもしれません。

公演後には、演者の皆さんと劇団代表であり監修も務める時津真人さん、そして深澤昌夫先生によるアフタートークショーが行われました。生前のつかこうへいさんのエピソードや、役者さんへの「熱海殺人事件」への思いをお話いただきました。衣装から稽古着に着替え、和やかに話す皆さんの姿は先ほどまでの激情的な芝居とは対照的で、役柄と素とのギャップに

日本文学科の二〇一八年度特別企画第一弾は、東京北区を拠点として活動する★☆北区AKI STAGEの皆さんをお迎えし「熱海殺人事件」を上演しました。大勢のお客さまにご来場いただき、盛況を収めました。次回の企画もどうぞご期待ください。

★☆北区AKI STAGEの皆さま、素晴らしいステージをありがとうございました。

(佑)

特別講義

六月一二日に喜多流能楽師の佐藤寛泰さんによる能の特別講座が開かれました。喜多流は、シテ方という能において主人公を演じる流派で、一つの公演をつかさどるグループです。能は六八〇年ほど前に観阿弥と世阿弥によって大成されました。能の曲目は二五〇曲あり、「源氏物語」などの日本の物語や中国から伝わってきた物語など、六五〇年前から存在しているものが中心です。時を経て能の台本である謡本の言葉が変わることは一切なく、そのためアドリブがないそうです。

今回の演目である「橋辨慶」の一部を、学生全員で謡いました。佐藤さんの謡う声にはとても迫力がありました。そして、三人の学生が、曲見・怪土・般若という三つの能面をつける体験をしました。能面には左右に紐が一本ずつ付いていて、扱う際にはその紐の辺りのみ触ります。そして能

体験講座

二〇一八年二月二日から二二日の三日間にわたり、日本文学科の学生に向けて伝統文化教育プログラム、実技講座「能を体験する」が開講されました。講師には喜多流能楽師の佐藤寛泰さんをお迎えし、舞や謡など能の基本を実際に体を動かすことで教えていただきました。和やかな雰囲気の中、一、四年生までの多くの学生が参加しました。

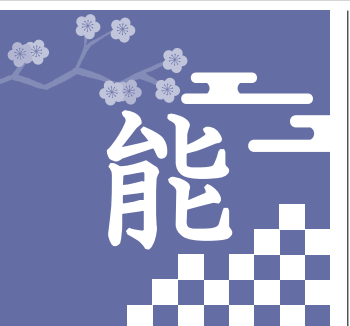
今回の講座では、能の演目の一つである『草紙洗小町』をご指導いただきました。体験したのは、この演目のクライマックスである、

能

面にお辞儀をしてからつけます。紐が一本しかないため、ずれないように頭にきつ結びつけていました。能面をつけると、少し顔を動かすだけでも大きな動作に見えました。このことを活かして能を舞うそうです。続けて、能の立ち方の練習をしました。実際はその立ち方を一時間以上続けるそうですが、数分間続けるだけでも大変でした。

今回の能の特別講座で、全身を使って能を感じることができました。佐藤さんにはお忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございました。

(庄)



平安時代の歌合で、大伴黒主が自害しようとしたところを小野小町がとりなし、和歌のすばらしさと和解を祝う舞をまう場面です。能の立ち座りや姿勢、発声方法を教えていただいた後、舞と謡の練習を交互に行いました。

謡は、歌詞に能特有の記号や文字のついた喜多流謡本を印刷したものを見ながら、先生の声に合わせて覚えました。このシーンには登場するキャラクターのセリフが多く含まれています。大伴黒主が思い悩んでいる場面では重々しく、小野小町がとりなすシーンでは、軽やかに女性らしく謡い分けることがポイントになっており、難しくも面白い点だと感じました。覚え



てみることで、能への見方も変化していき、さらに楽しむことができるのではないかと思います。舞は華やかな扇を使用し、先生の動きを真似しながらの練習でした。謡に合わせ、能の型を一つひとつ着実に確認していききました。慣れない動きも多く、二日目以降は筋肉痛を訴える学生も見られました。覚えきれなかった動きは、先生のお手本を録画し、学生同士で確かめ合うことで三日目の発表に備えました。

二人ずつの発表は、非常に緊張しましたが、学年を超えて協力することで、ぎこちないながらも全員が無事に終えることができました。能の講座では、能そのものの知識を学ぶだけでなく、声を出して人前で発表することに慣れるための良い経験ができたことができたように思います。能の体験は普段減多にできることはありません。まだ体験したことが無い皆さんも機会があればぜひ参加してみてください。いかがでしょうか。

講師の佐藤さん、鈴木さん、お忙しいところ講座の時間を設けてくださり、誠にありがとうございました。

(海)

寝ちゃいけない、だけどうし
ても眠い！下がる暇、徐々に重
くなる頭、気が付けば瞬間移動し
た時計の針。次の日眠くならな
いように、といても十分な睡眠を
毎日とり続けるのは難しい。そ
でお教えします、「眠気予防法」
& 「眠気撃退法」。昼間の睡魔に
襲われがちの皆さん、参考にし
てみてください。

お役立ち 情報



はじめに、「眠
気予防法」から紹
介しましょう。そ
もそも眠くならな
いためにはどうし
たら良いのですよ
うか。特に昼食を
とった後、ついウ
トウトしてしまっ
たという経験を持
つ方も多いと思い
ます。実は、食後の
血糖値の乱高下が
眠気を引き起こす
原因といわれています。食後に糖
質が基になったブドウ糖により血
糖値が上がると、その後ホルモン
の分泌によって血糖値が下がるこ
とで眠気を催すようです。さらに、
食べすぎでも同じ現象が起こるの
で、量にも注意が必要です。昼食
は多く糖質を含む甘いもの、パン
や麺類、ご飯の量を見直してみる
といいかもしれません。また最近

は、低糖質ダイエットが流行して
います。そのためか、コンビニや
学生生協等でも糖質を抑えた製品
が売られていますよ。気になった
方は覗いてみてください。
しかし万が一、予防をしていて
も睡魔に襲われてしまったら？こ
こで活躍するのが「眠気撃退法」
です。今回は周囲に気づかれない
で眠気を取る方法を紹介します。

手や耳には眠気を
覚ますツボがあり
ます。手の親指と
人差し指の付け根
のくぼんでいる部
分に合谷と呼ばれ
るツボがあります。
反対の手を使い、
人差し指の骨に向
かって強めに押し
てみてください。ま
た、耳たぶをつま
み、引く張ること
も効果的であるよ
うです。これにより耳と首のツボ
が刺激されます。耳にはたくさん
のツボが集中しており、眠気を取
る以外の頭痛や肩こり改善の効果
も期待できます。
ぐっすり眠ることが一番ですが、
それができないときは様々な対策
を駆使して今日も睡魔と戦って
いきましょう。ここでの情報が皆さ
んのお役に立てば幸いです。(海)

食堂物語

今回から始まり
ました「食堂物語」
記念すべき第一回
目は食堂での過ご
し方について紹介
したいと思います。
一限目の授業が
終わり、二限目の授
業が始まるころ、二
限目が空きコマの
学生・午後から授業
の学生等々、だんだんと食堂に人が
集まり始めます。食堂の営業自体は
一時一五分からですが、食堂自体
はその前から開いています。それま
での間に課題や自分の勉強をする人
もいれば、友達との会話を楽しむ人
もいます。過ごし方はそれぞれです。
一時一五分過ぎに、食堂の営業が
始まります。食堂内には麵コーナー、
ごはん類コーナー、サラダバー、お
ぼんざいお惣菜等、様々なコーナー
があります。各コーナーをまわり、
自分の食べたい物をトレイにのせて
いきます。どのコーナーもメニ
ューが豊富です。サラダバーとおぼ
んざいコーナーはビュッフェスタイ
ルになっていて、自分が食べたい分
だけ取るのができ、一〇〇gあた
り一三九円となっています。注意
点として、一度盛りつけたおかずやサ
ラダは多く取り過ぎても戻すことが
できません。一気に取りすぎに少し
づ盛りつけましょう。また、サラダ

とおぼんざいはお持ち帰り専用の容
器に盛りつけられれば食堂の外でも食
べることができます。
お昼休み、食堂の混雑はピークを
迎えます。時間に余裕のある人はお
昼休み前後の時間帯に行くのがおす
すめです。どのメニューも美味しい
ので四年間のうちに是非一度は訪れ
てみてください。(志)



日本文学会紹介

「日本文学会」とは、日本文学
科の先生方と学生によって構成さ
れる活動組織です。企画部、編集
部、図書部という三つのパートに
分かれ、日々活動しています。
企画部は、主に日本文学科生向
けイベントの企画運営を行います。
毎年恒例となっている本学科OG
による講演会や文学旅行などは、
この部署が担当しています。編集
部は、日本文学科に関する広報活
動を行う部署です。「日本文学だ
よ
り」や「葉」を定期的に発行して
おり、仕事内容は、記事の取材
執筆、校正など多岐に渡ります。
図書部は、日本文学科図書室の図
書貸出業務及び「図書だより」の
発行が主な活動です。また、隔年
で実施している製本講習会の企画
運営も行います。
そのほか、日本文学会室(A・
346)では授業資料の印刷や備
品貸し出しなどを承っております。
ブログやツイッターも定期的に更
新していきますが、基本的には自由
行動になることが多いです。その
ため、友人と思いい出作りに参加し
ていただいても楽しめると思いま
す。
加えて、費用が保険代の三〇〇
円しか掛からないというところも
魅力です。三〇〇円で貸し切りバ
スに乗り、日帰り旅行に行けてし
まうなんて、とてもお得だと思
いませんか。
例年、たくさんのお申込みをい
ただいております。文学旅行ですが、
定員がございます。日程が近くな
りましたら、改めてご案内を致し
ますので、その際はお早めにお
申し込みください。
皆さんのお申込みを心よりお待
ちしております。(阿)



編集部	鋭意活動	中	部員募集	中	新企画	始動中
-----	------	---	------	---	-----	-----

編集後記

この度、新しい企画に挑戦しま
した『葉』一〇一号、楽しんでい
ただけましたでしょうか。
昨年度、『葉』は節目となる一
〇〇号を迎えました。今回は心新
たに『葉』を作りたいと思ひ、例
年行ってきたことに変化を加えま
した。紙面の色合いを明るくし
たり、四コマ漫画を入れたり、記
し下の一言を入れたりなど、楽し
い紙面になるよう努めました。新
しい企画を行うにあたり、副手さ
ん、担当の先生方には大変お世話
になりました。この場を借りて深
く感謝申し上げます。
今年度は編集部に入生を七人
迎え、計一三人で活動していきま
す。編集部一同は心を込めて記事
を書いていきます。手にとつても
いい、読んでくださることがな
るの幸いです。最後まで『葉』を
ご覧くださりありがとうございます。
今後の編集部を温かく見守って
くださいませ。
日本文学会編集部

文学旅行

日本文学会の企画部です。企画
部はその名の通り、日本文学科に
おけるイベントの企画をする部署
です。その中でも毎年秋に開催さ
れている「文学旅行」は大きなイ
ベントになります。
文学旅行では、日本文学科の学
生限定で文学に触れる日帰り旅行
に出かけます。昨年は山形県天童
市方面に行きました。天童市では
主に、山寺の観光や焼き物の給付
け体験を行いました。
今年度は岩手県花巻市方面に行き、
宮沢賢治巡りをしたいと思ひます。
現時点では、向かう方面が決定し
ただけなので具体的などこに行く
かをお伝えすることはできません。
しかし、今年度は「宮沢賢治」と
いうテーマがありますので、宮沢
賢治が好きなた、近代文学が好き
な方は今からご検討いただきたい
と思ひます。
「文学旅行」と聞いて少し堅苦
しいものだと思つた方がいました
ら、それは少し違います。巡る場
所についてはこちらで決めてしま
いいただきますが、基本的には自由
行動になることが多いです。その
ため、友人と思いい出作りに参加し
ていただいても楽しめると思いま
す。
加えて、費用が保険代の三〇〇
円しか掛からないというところも
魅力です。三〇〇円で貸し切りバ
スに乗り、日帰り旅行に行けてし
まうなんて、とてもお得だと思
いませんか。
例年、たくさんのお申込みをい
ただいております。文学旅行ですが、
定員がございます。日程が近くな
りましたら、改めてご案内を致し
ますので、その際はお早めにお
申し込みください。
皆さんのお申込みを心よりお待
ちしております。(阿)